

地域のひととともに

この映画の制作に当たり、2017年に支援団体「川内大綱引を継承する会」が設立され、構成員の川内大綱引保存会や川内商工会議所を筆頭に、多くの市民の方々が協力し、薩摩川内の土地柄や人の温かさが詰まった一つの作品を佐々部監督らとともに作り上げてきました。

今回は、その中の一人でこの映画のために尽力された方にもお話を伺いました。



国分寺町の下台自治会の皆さんが手作り料理で応援

川内大綱引を継承する会 副会長

堂園 喜明さん



映画「大綱引の恋」ロケ地誘致のきっかけは、市内であった西田聖志郎さんの講演会後の懇親会。大綱引の話題になり、西田さんにも見に来ていただきたいと、その年の川内大綱引に保存会が招待。そのあまりの迫力に西田さんが感動し、映画化の企画プロデュースが始まりました。川内大綱引の魅力は、綱に関わる人々の「団結力」。祭りの花形である一番太鼓は、自分一人ではなれる訳ではなく、家族・地域・職場の人々、大綱に関わる全ての人の応援があつて初めてなるもの。この映画には、その素晴らしさが込められています。

全国の方にこの映画をご覧いただき、薩摩川内の良さを知り、訪れる機会としていただきたいですね。

『つなこい』旋風吹き荒れる!

川内文化ホールに 映画「大綱引の恋」 キャスト登場!

先行上映会と舞台あいさつ

令和2年10月31日、川内文化ホールで映画「大綱引の恋」の先行上映会があり、第一部の上映終了後、出演した三浦貴大さん(主人公・有馬武志役)、比嘉愛未さん(主人公の妹・有馬敦子役)、中村優一さん(敦子の恋人・福元弦太郎役)、升毅さん(「綱ごころ」店主・中園喜明役)、西田聖志郎さん(武志の父親・有馬寛志役)の5人の舞台あいさつと記者会見が行われました。

舞台あいさつの中で、急逝された佐々部監督の印象や思い出を質問された比嘉さんは、「愛に満ち溢れた素晴らしい方。2作品参加して、大綱引の恋の撮影が終わった日にお酒を飲みましたが、『これで愛も佐々部組の一員だな』と喜んでくださった言葉が忘れられなくて。一生この言葉を胸に刻んでこれから役者人生を歩んでいこうと思えました」と涙を拭かれました。

また、比嘉さんとの初共演で恋人役を演じた感想を聞かれた中村さん

は、「僕が一番太鼓が決まって、比嘉さんと喜んでハグするシーンがあるんですけど。そのシーンの時に、監督がほんとに比嘉さんが大好きなんだなあというエピソードがあつて。本番ギリギリまで比嘉さんの役を佐々部監督がやるんですよ。僕は、佐々部監督を抱き締めて「よかったね」と。比嘉さんはすぐ横で見てるんですよ。この光景はすごいなと。佐々部監督はほんとに比嘉さんが大好きなんだなあ」と話され、それを受けた三浦さんは「僕も知英さんと屋上でなんやかんやあるんですが、この二人の関係の時には、愛未ちゃんの所に佐々部監督が入っていたんですけど、僕と知英ちゃんの時には、佐々部監督が『ちよつと貴大見えて』と、なんか知英さんと抱き合おうとするんですよ。そういうところはかわいいなあと」と監督とのエピソードを明かされました。

佐々部監督5作品目の出演となつた升さんは、今回演じるに当たって心掛けたことについて、「佐々部

監督の作品って日常の一コマを切り取つたような作品が多いんですね。いかにそこにその人が存在しているかって事を大事にされる方だったので、ちよつとオーバーなお芝居だったり、取って付けたようなお芝居をすごく嫌う。今回も特に『綱ごころ』のあそこの席にずっと座ってる人になろうと考えると考えながら演じてました」と話されました。

プロデューサーで出演者でもある西田さんは、「映画は完成した後でも、観客の皆さまによって育て上げられると言われております。ぜひ、この『大綱引の恋』を市民の皆さんの宝物としてこれからも見守って大事に育てていっていただきたいと思えます」と映画への思いを述べられました。

そして、最後に主演の三浦さんは、「やっと一年掛かってようやく川内に帰ってきて皆さんに見てもらえて本当に嬉しい気持ちです。この映画で少しでも皆さんの中にあったかいいものを感じてもらえたりしたらうれしいと思います」と結ばれました。

行ってみよう! 市内のロケ地スポット



石走ラーメン 鳥追町 7-8



前の平展望所 下甌町瀬々野浦



山 café 寺山レストラン 天辰町 2453-30 (寺山いこいの広場内)



綱ごころ 西向田町 11-24



こしきの宿 里町里 468



新田神社 宮内町 1935-2

この他多数登場! 詳しくは本編でのお楽しみです

観光物産ガイドところHPにてGoogleマップと連動したロケ地マップを公開中! ぜひ、ロケ地巡りにご利用ください!



▲薩摩川内観光物産ガイドところHP

川内に帰ってきて皆さんに見てもらえて本当にうれしい。

大好きで尊敬する監督から直々の出演オファー。即決でした。

夜、ホテルにばちだけ持って帰って枕たたく練習していました。

佐々部組の組頭として、いかに片棒を担ぐかを考え、演じました。

子どもたちに「いつかは一番太鼓をたたくぞ」と思っていたんだ。